



## 2022年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年11月12日

上場会社名 株式会社 安楽亭

上場取引所 東

コード番号 7562 URL <http://www.anrakutei.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柳 先

問合せ先責任者 (役職名) 総務人事部 課長 (氏名) 町田 英之

TEL 048-859-0555

四半期報告書提出予定日 2021年11月15日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	10,261	15.3	1,817		20		118	
2021年3月期第2四半期	12,108	50.7	1,252		1,133		1,353	

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 119百万円 ( %) 2021年3月期第2四半期 1,349百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	55.31	
2021年3月期第2四半期	632.93	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	20,515	4,271	20.8
2021年3月期	23,487	4,391	18.7

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 4,271百万円 2021年3月期 4,391百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		0.00		0.00	0.00
2022年3月期		0.00			
2022年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,539	3.8	1,775		600		306		143.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期2Q	2,139,434 株	2021年3月期	2,139,434 株
期末自己株式数	2022年3月期2Q	1,547 株	2021年3月期	1,477 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期2Q	2,137,916 株	2021年3月期2Q	2,138,048 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

当社は、2021年11月19日に証券アナリスト及び機関投資家向けの四半期決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明会資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による消費活動の冷え込みが続きました。国内のワクチン接種が進み新規感染者数の減少が見られるものの、感染再拡大の懸念も去ってはおらず、景気の先行きは依然として不透明な状況です。

外食産業におきましては、店舗営業時間、アルコール提供、会食人数及び時間等の制限及び消費者の外出控えにより客数及び客単価が低下したことに加え、輸入牛肉を始めとする食材等の価格高騰によって原材料調達コストが上昇しており、厳しい経営環境が続きました。

このような環境の下、当社グループは、経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様の基本ニーズである「安全・安心」に徹底してこだわった「自然肉100%」の商品提供を堅持するとともに、店内の衛生管理を強化・徹底し、お客様に安心してご来店いただける環境づくりに注力してまいりました。また、弁当等テイクアウトの対応強化、メニューのリニューアル、フェア開催等により集客に努め、さらに、一部店舗にて朝食サービスあるいは早い時間帯のランチの提供を開始するなど、新たな売上獲得の試みも進めております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高102億61百万円（対前年同期比15.3%減）、営業損失18億17百万円（前年同期は営業損失12億52百万円）、経常利益20百万円（前年同期は経常損失11億33百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失1億18百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失13億53百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ① 安楽亭業態

安楽亭業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は168店舗であります。内訳は直営118店舗、暖簾12店舗、FC38店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、コロナ禍に伴う営業時間短縮やアルコール提供中止の影響のカバーを図るため、お客様に外食の楽しさを実感していただけるような施策を積極的に展開してまいりました。映画「100日間生きたワニ」とのコラボフェアを開催したほか、昨年より販売強化しております食べ放題について夏限定「夏の元気復活メニュー」を投入してさらなる魅力向上を図りました。また、お一人様や少人数のご利用に向けて定食メニューをリニューアルするなどメニューのバリエーションの充実に取り組んでまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は39億12百万円（対前年同期比17.4%減）となり、セグメント損失（営業損失）は5億95百万円（前年同期はセグメント損失1億42百万円）となりました。

#### ② 七輪房業態

七輪房業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は28店舗であります。内訳は直営23店舗、暖簾2店舗、FC3店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、安楽亭業態同様、フェア企画を積極的に展開したほか、グランドメニューのリニューアルや「ランチ限定食べ放題」「期間限定ランチ」の販売等、お客様に七輪房の魅力をお伝えするための施策に取り組んでまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は6億99百万円（対前年同期比19.5%減）となり、セグメント損失（営業損失）は1億27百万円（前年同期はセグメント損失28百万円）となりました。

#### ③ アークミール

当社連結子会社である株式会社アークミールの各業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は直営143店舗であります。

なお、アークミール業態には、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス（ステーキ）」、「donイタリアーノ（イタリアン）」を含んでおります。

販売促進及び商品開発につきましては、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス」の主要各業態において、安楽亭業態同様に積極的に来店促進の施策を展開してまいりました。映画「100日間生きたワニ」とのコラボフェア開催、多彩な各種クーポン配信等の企画のほか、「新どんステ祭」（ステーキのどんの創業期メニューのリニューアル）、「ねぎとキャベツの巻きしゃぶ」（どん亭の新メニュー）、「激アツステーキ丼」（ステーキのどんの人気メニューのテイクアウト限定商品）の販売等、メニューの魅力向上に努めました。

以上の結果、アークミールの当第2四半期連結累計期間の売上高は55億41百万円（対前年同期比12.8%減）となり、セグメント損失（営業損失）は8億10百万円（前年同期はセグメント損失7億80百万円）となりました。

#### ④ その他業態

その他業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は9店舗であります。内訳は直営5店舗、FC4店舗であります。

なお、その他業態には、「えんらく（焼肉食べ放題）」、「からくに屋（焼肉）」、「花炎亭（焼肉）」、「春秋亭（和食）」、「上海菜館（中華）」、「アグリコ（イタリアン）」、「カフェビーンズ（喫茶）」、「安楽亭ベトナム（焼肉）」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は1億8百万円（対前年同期比27.4%減）となり、セグメント損失（営業損失）は46百万円（前年同期はセグメント損失35百万円）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

### ① 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ29億71百万円減少し、205億15百万円となりました。これは、現金及び預金の減少等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ28億52百万円減少し、162億43百万円となりました。これは、未払消費税等の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ1億19百万円減少し、42億71百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等が要因です。

### ② キャッシュフローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ、29億60百万円減少し、21億55百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、助成金収入の計上19億7百万円、未払消費税等の減少額11億12百万円等により27億3百万円の支出となりました。前年同期は2億22百万円の収入でありました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出1億44百万円、敷金及び保証金の回収による収入45百万円等により97百万円の支出となりました。前年同期は13百万円の収入でありました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入れによる収入10億円、長期借入れによる収入5億円、長期借入金の返済による支出15億8百万円等により1億63百万円の支出となりました。前年同期は12億71百万円の収入でありました。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2021年5月14日に公表いたしました業績予想から変更しております。詳しくは、2021年11月11日に公表いたしました「業績予想（連結・個別）の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,322,001	2,361,119
受取手形及び売掛金	789,745	514,608
商品及び製品	494,748	492,070
仕掛品	655	3,295
原材料及び貯蔵品	916,385	1,313,399
前払費用	373,645	369,885
その他	565,915	830,764
貸倒引当金	△4,917	△4,917
流動資産合計	8,458,179	5,880,227
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,601,289	3,456,796
機械装置及び運搬具（純額）	113,956	94,087
工具、器具及び備品（純額）	302,326	340,083
土地	6,126,249	6,126,249
リース資産（純額）	185,118	148,833
建設仮勘定	7,439	20,243
有形固定資産合計	10,336,379	10,186,293
無形固定資産		
のれん	47,071	35,669
その他	492,474	509,704
無形固定資産合計	539,546	545,374
投資その他の資産		
投資有価証券	147,767	148,498
長期貸付金	9,874	9,378
長期前払費用	305,645	279,161
繰延税金資産	274,263	208,130
敷金及び保証金	3,408,210	3,252,282
その他	34,150	32,780
貸倒引当金	△26,762	△26,697
投資その他の資産合計	4,153,150	3,903,533
固定資産合計	15,029,076	14,635,201
資産合計	23,487,256	20,515,428

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	882,865	636,515
短期借入金	4,162,493	4,640,107
リース債務	76,901	67,713
割賦未払金	255,801	263,000
未払金	445,882	406,070
設備関係未払金	43,955	58,542
未払費用	1,670,920	1,084,075
未払法人税等	323,088	73,389
未払消費税等	1,099,700	2,971
賞与引当金	109,708	119,021
転貸損失引当金	13,297	13,297
店舗閉鎖損失引当金	47,866	1,832
資産除去債務	7,447	39,292
その他	963,586	479,844
流動負債合計	10,103,513	7,885,675
固定負債		
長期借入金	6,495,184	6,009,321
リース債務	204,870	169,280
長期割賦未払金	779,316	692,413
繰延税金負債	185,546	186,974
役員退職慰労引当金	114,602	122,829
転貸損失引当金	9,539	2,890
退職給付に係る負債	457,813	429,077
資産除去債務	400,255	388,707
その他	345,411	356,466
固定負債合計	8,992,539	8,357,960
負債合計	19,096,053	16,243,636
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,472,098	2,472,098
利益剰余金	△1,281,067	△1,399,320
自己株式	△8,260	△8,644
株主資本合計	4,365,155	4,246,518
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,409	15,712
為替換算調整勘定	1,411	2,171
退職給付に係る調整累計額	8,226	7,389
その他の包括利益累計額合計	26,047	25,273
純資産合計	4,391,202	4,271,792
負債純資産合計	23,487,256	20,515,428

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	12,108,684	10,261,896
売上原価	4,429,273	4,077,521
売上総利益	7,679,411	6,184,375
販売費及び一般管理費	8,931,751	8,001,923
営業損失(△)	△1,252,340	△1,817,548
営業外収益		
受取利息	2,436	1,823
受取配当金	1,948	1,738
受取地代家賃	34,213	33,508
助成金収入	132,362	1,907,145
その他	13,547	15,733
営業外収益合計	184,507	1,959,949
営業外費用		
支払利息	46,233	57,786
支払手数料	—	48,500
賃貸収入原価	18,480	14,837
その他	1,345	482
営業外費用合計	66,059	121,606
経常利益又は経常損失(△)	△1,133,891	20,794
特別利益		
固定資産売却益	—	1,954
特別利益合計	—	1,954
特別損失		
固定資産除却損	23,923	4,461
減損損失	3,535	27,044
賃貸借契約解約損	125,045	11,557
特別損失合計	152,505	43,063
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,286,397	△20,314
法人税、住民税及び事業税	36,756	31,312
法人税等調整額	30,082	66,627
法人税等合計	66,839	97,939
四半期純損失(△)	△1,353,236	△118,253
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,353,236	△118,253

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
四半期純損失(△)	△1,353,236	△118,253
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,174	△696
為替換算調整勘定	△0	759
退職給付に係る調整額	△1,039	△836
その他の包括利益合計	4,134	△773
四半期包括利益	△1,349,102	△119,026
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,349,102	△119,026

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△1,286,397	△20,314
減価償却費	390,925	367,027
減損損失	3,535	27,044
のれん償却額	11,402	11,402
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△69	△64
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△51,921	9,313
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	6,568	8,226
転貸損失引当金の増減額 (△は減少)	△6,648	△6,648
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	50,063	△46,034
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△22,320	△30,066
受取利息及び受取配当金	△4,385	△3,562
助成金収入	△132,362	△1,907,145
支払利息	46,233	57,786
為替差損益 (△は益)	816	△17
固定資産売却損益 (△は益)	—	△1,954
固定資産除却損	23,923	4,461
賃貸借契約解約損	125,045	11,557
売上債権の増減額 (△は増加)	61,691	275,136
棚卸資産の増減額 (△は増加)	195,956	△396,975
前渡金の増減額 (△は増加)	2,737	△20,976
仕入債務の増減額 (△は減少)	△216,830	△246,349
未払金の増減額 (△は減少)	△18,378	△39,811
未払消費税等の増減額 (△は減少)	377,115	△1,112,808
未払費用の増減額 (△は減少)	362,408	△592,139
預り金の増減額 (△は減少)	179,894	△416,957
前受収益の増減額 (△は減少)	△21,091	△22,676
その他	162,664	△22,194
小計	240,578	△4,114,739
利息及び配当金の受取額	3,836	3,100
助成金の受取額	100,733	1,659,363
利息の支払額	△40,637	△56,554
店舗閉鎖に伴う支払額	△85,980	△6,076
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	4,008	△188,186
営業活動によるキャッシュ・フロー	222,537	△2,703,093

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△92,019	△144,925
有形固定資産の除却による支出	△2,844	—
有形固定資産の売却による収入	—	1,954
無形固定資産の取得による支出	△26,339	△39,677
敷金及び保証金の差入による支出	△22,727	△1,548
敷金及び保証金の回収による収入	91,530	45,961
預り保証金の返還による支出	△4,000	△6,200
貸付けによる支出	△100	—
貸付金の回収による収入	953	1,257
投資その他の資産の増減額(△は増加)	68,707	46,091
投資活動によるキャッシュ・フロー	13,160	△97,086
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	1,800,000	1,000,000
長期借入れによる収入	740,000	500,000
長期借入金の返済による支出	△1,093,486	△1,508,249
割賦債務の返済による支出	△120,010	△114,165
リース債務の返済による支出	△54,553	△40,707
自己株式の取得による支出	△199	△383
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,271,751	△163,505
現金及び現金同等物に係る換算差額	△604	2,801
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,506,844	△2,960,883
現金及び現金同等物の期首残高	3,568,119	5,116,119
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,074,964	2,155,235

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しておりますが、当該変更による影響は軽微であります。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、当第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	アークミール	その他業態	計			
売上高								
外部顧客への 売上高	4,734,683	868,680	6,355,320	149,999	12,108,684	12,108,684	—	12,108,684
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	4,734,683	868,680	6,355,320	149,999	12,108,684	12,108,684	—	12,108,684
セグメント損失 (△)	△142,316	△28,237	△780,539	△35,449	△986,542	△986,542	△265,797	△1,252,340

(注) 1. セグメント損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては3,535千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	安楽亭業態	七輪房業態	アークミール	その他業態	計			
売上高								
顧客との契約 から生じる収益	3,912,251	699,293	5,541,524	108,828	10,261,896	10,261,896	—	10,261,896
外部顧客への 売上高	3,912,251	699,293	5,541,524	108,828	10,261,896	10,261,896	—	10,261,896
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	3,912,251	699,293	5,541,524	108,828	10,261,896	10,261,896	—	10,261,896
セグメント損失 (△)	△595,807	△127,531	△810,220	△46,170	△1,579,730	△1,579,730	△237,817	△1,817,548

(注) 1. セグメント損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(注) 3. 会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの損失の算定方法を同様に変更しております。当該変更が、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間に係る報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報に与える影響はありません。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「七輪房業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては2,274千円であります。「アークミール」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては24,769千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。